

令和4年度病害虫発生予報第4号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病（穂いもち）	並	並
	紋枯病	やや多	やや多
	穂吸汁性カメムシ類	並	並
普通期水稲	いもち病（葉いもち）	やや多	やや多
	紋枯病	並	並
	縞葉枯病	やや少	やや少
	セジロウンカ	少	少
	トビイロウンカ	並	並
	コブノメイガ	やや少	やや少
大豆	ハスモンヨトウ		やや少
いちご （育苗床）	うどんこ病	やや少	やや少
	炭疽病（ <i>G.cingulata</i> ）	並	並
	ハダニ類（防除情報第5号）	多	多
アスパラガス	斑点性病害（褐斑病、斑点病）	少	やや少
	アザミウマ類	並	並
かんきつ	かいよう病（注意報第2号）	多	多
	黒点病	少	やや少
	ミカンハダニ	やや多	やや多
	チャノキイロアザミウマ	並	並
びわ	がんしゅ病	少	少
	灰斑病	やや少	やや少
	ナシヒメシンクイ	やや多	やや多
なし	黒星病	やや多	やや多
	ナシヒメシンクイ	多	多
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	炭疽病	やや多	やや多
	チャノキイロアザミウマ	やや多	やや多
	チャノコカクモンハマキ	やや多	やや多
	チャノホソガ	やや多	やや多
	カンザワハダニ	並	並
	チャノミドリヒメヨコバイ	やや多	やや多
	クワシロカイガラムシ	少	少

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（39筆）の結果、葉いもちの発病株率は2.4%

（2.6%）、発生圃場率は20.5%（27.8%）であり、一部に多発圃場も

みられた。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、葉いもちの発病株率は2.0%（0.8%）であった。

2. 紋枯病

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（39筆）の結果、発病株率は1.4%（0.2%）、発生圃場率は23.1%（7.3%）であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発病株率は82.0%（29.9%）であった。

ウ 向こう1ヶ月の気温は高く、降水量も平年並か多い見込みであり本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

粉剤及び液剤は株元に十分薬剤が付着するよう丁寧に散布する。

3. 穂吸汁性カメムシ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月前期のイネ科雑草におけるすくい取り調査（28地点）の結果、捕虫網による10回すくい取りあたり虫数は8.4頭（8.1頭）であった（表）。

表 イネ科雑草でのすくい取り調査における虫数の推移

種類別	10回すくいとり当り虫数						発生地点率	
	H30	R1	R2	R3	平年	R4	平年	R4
ホリハリカメムシ	1.1	0.2	0.8	0.3	0.7	0.8	61.0	50.0
クモヘリカメムシ	1.0	0.2	0.0	0.0	0.3	0.2	22.7	23.1
シラホシカメムシ	0.1	0.2	0.1	0.0	0.2	0.0	32.9	19.2
アカシカスミカメ	7.8	5.0	1.8	2.8	7.0	7.0	80.3	88.5
ミナミアオカメムシ	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.5	7.7
計	9.7	5.3	2.3	2.9	8.1	8.4	88.7	96.2

注) 数値は10回すくい取りあたりの虫数

(3) 防除上注意すべき事項

ア 出穂期以降の水田周辺の雑草地を除草すると本田へのカメムシ類の飛来を助長するので行なわない。

イ 本田への飛来が多くなる夕方に薬剤散布すると効果が高い。また、周辺雑草地も含めて広域一斉防除をおこなうと防除効果が高まる。

ウ ミナミアオカメムシは斑点米を発生させる能力が高いので圃場での発生に注意する。また一部の薬剤で感受性の低下が報告されているので、薬剤の選定にあたっては十分注意する。

普通期水稻

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査（86筆）の結果、葉いもちの発病株率は0.2%（0.1%）、発生圃場率は9.3%（2.5%）であった。

イ 7月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（過去10か年平均 発病株率0.4%）。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日は下表のとおりである（葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照）。

月日	長崎	佐世保	島原	平戸	松浦	厳原	芦辺	福江	西海	口之津
7月1日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月2日	-	?	-	?	-	-	-	?	-	?
7月3日	-	-	?	?	-	-	-	-	-	-
7月4日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月5日	-	-	-	2	3	-	-	-	3	-
7月6日	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-
7月7日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月8日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月9日	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-
7月10日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月11日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月12日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月13日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月14日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月15日	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-
7月16日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月17日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7月18日	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
発生指標	?:判定 不能	- :好適 条件なし	1:準好 適条件1	2:準好 適条件2	3:準好 適条件3	4:準好 適条件4	:好適 条件			

* 感染した場合、感染好適と判断された日から7～10日後に病斑発現

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 余り苗、補植苗は発病の伝染源となるので早めに処分する。
- イ 葉いもちの急性型病斑が見られた場合は早急に防除を行う。
- ウ 葉いもちの発生が認められる圃場では、穂ばらみ期と穂揃期の2回防除を行う。

2. 紋枯病

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

- ア 7月前期の巡回調査(86筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

3. 縞葉枯病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 7月前期の巡回調査(86筆)の結果、発生を認めなかった(過去10か年平均発生株率0.0%、発生圃場率0.1%)。
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 7月前期の巡回調査(86筆)の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.0頭(0.0頭)、発生圃場率は19.8%(20.0%)であった。
- エ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭(0.1頭)、寄生株率は9.0%(9.9%)であった。

4. セジロウンカ

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

- ア 7月前期の巡回調査(86筆)の結果、株当たり虫数は0.0頭(0.2頭)、発生圃場率は16.3%(50.9%)であった。
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、株当たり虫数は0.2頭(1.4頭)、寄生株率は16.0%(72.2%)であった。

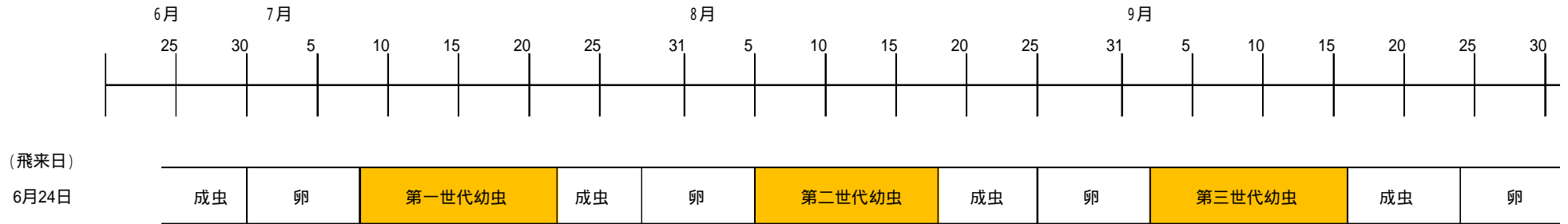
5. トビイロウンカ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠
- ア 7月前期の巡回調査(86筆)の結果、株当たり虫数は0.0頭(0.0頭)、発生圃場率は5.8%(4.9%)であった。
- イ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生は認められなかった(株当たり虫数0.1頭、寄生株率6.8%)。
- (3) 防除上注意すべき事項
- ア 今後の圃場での発生状況に注意し、7月下旬～8月上旬にかけて100株当たり20頭以上の成虫の寄生が認められる場合は、それらの次世代幼虫期に防除を行う。
- イ 株元に多く寄生するので薬剤散布にあたっては株元に薬剤が十分付着するように丁寧に散布する。
- ウ 圃場間や同一圃場内でも偏って発生していることが多いので、できるだけ圃場の見回りを徹底する。また、飛来波の今後の発生予測は図のとおりであるが、地域や圃場により発生状況が異なることがあるので、それぞれの圃場における発生状況を把握した上で防除を行う。

6. コブノメイガ

- (1) 予報内容：発生程度 やや少
- (2) 予報の根拠
- ア 6月中旬以降フェロモントラップ(諫早市)への誘殺が認められているが、誘殺数は少ない。
- イ 県内各地(長崎市、大村市、佐世保市、対馬市)のフェロモントラップでは、7月3半旬に佐世保市で誘殺があったが、それ以外では認められていない。
- ウ 7月前期の巡回調査(86筆)の結果、食害株率は1.0%(0.0%)、食害発生圃場率は18.6%(4.4%)であった。
- エ 7月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、食害株率は2.0%(6.1%)であった。
- (3) 防除上注意すべき事項
- 圃場間や同一圃場内でも偏って発生していることが多いので、圃場の見回りを徹底する。薬剤散布は、粉剤・液剤では成虫発生最盛期の7～10日後、粒剤では成虫発生最盛期に行う。

(図) トビロウソウカの発生予測図(令和4年)



発生予測の気温は諫早市貝津町(農林技術開発センター)のデータを用いた(7月18日まで実測値、19日以降は平年値)

大豆

1. ハスモンヨトウ

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

フェロモントラップ（諫早市）の誘殺数はやや少で推移している（図）。

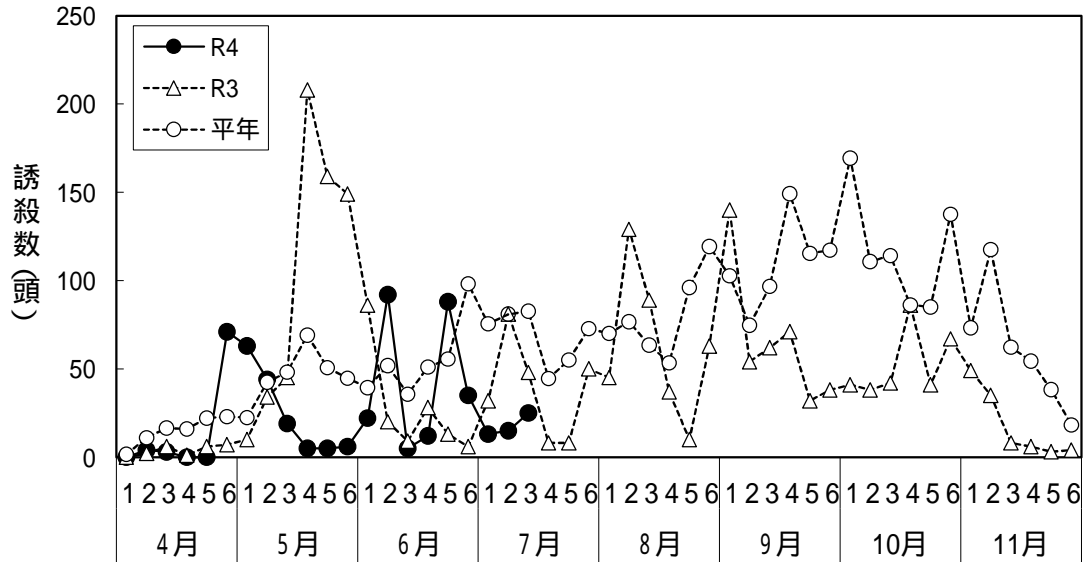


図 ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺状況(諫早市小船越町) (月・半旬)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 圃場の見回りを徹底し、白変葉が散見され始めたら早急に防除を行う。
- イ 老齢幼虫になると薬剤の効果が低下するので、若齢幼虫期に薬剤散布する。

いちご(育苗床)

1. うどんこ病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査(30筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率1.0%、発生圃場率10.8%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

本病菌の本圃への持ち込みを防ぐため、定期的な防除を行う。特に「恋みのり」は「ゆめのか」に比べて葉で本病が発生しやすいため留意する。

2. 炭疽病(G.cingulata)

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査(30筆)の結果、発病株率0.0%(0.1%)、発生圃場率は3.3%(3.6%)であった。

3. ハダニ類

令和4年7月19付け病害虫発生予察防除情報第5号による。

アスパラガス

1. 斑点性病害

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病側枝率は0.0%(0.6%)、発生圃場率は8.3%(20.2%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並みか多い見込みであり、本病の発生に好適である。

2. アザミウマ類

(1) 予報内容：発生程度 並

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査(12筆)の結果、払い落とし虫数(10.5cm×22.5cm白色板に5回×10か所)は13.3頭(12.4頭)、発生圃場率は50.0%(61.4%)であった。

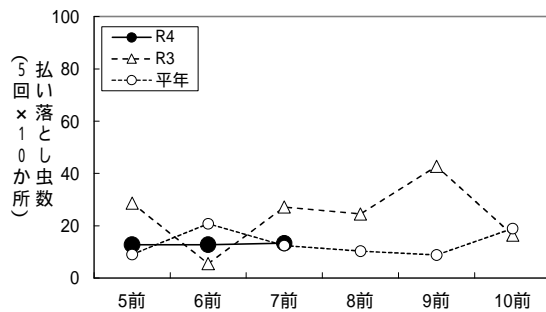


図 アザミウマ類 払い落とし虫数の推移
払い落とし虫数は成虫、幼虫の合計

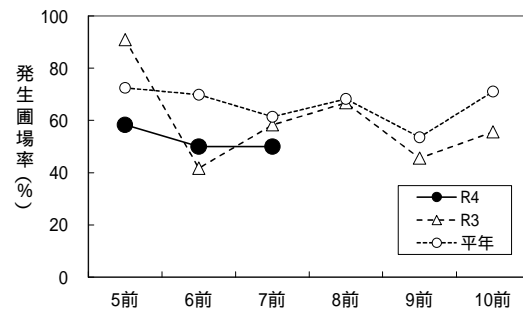


図 アザミウマ類 発生圃場率の推移

かんきつ

1. かいよう病

令和4年7月19日付け**病害虫発生予察注意報第2号**による。

2. 黒点病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.7%、発生圃場率7.5%)。

イ 向こう1か月の降水量は平年並みか多い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 今後の気象(降雨)の推移に留意し、防除適期を逸しないよう努める。

イ 臨機防除で薬剤を追加散布する場合は、各薬剤の使用回数に注意する。

ウ 枯れ枝が伝染源となるので、管理作業と併せて剪除する。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は18.6%(9.9%)、発

生圃場率は38.9% (41.1%) で一部多発圃場が見られた。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和4年長崎県病害虫防除基準 P430~431の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤は連用しない。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容: 発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査(36筆)の結果、果梗部の被害果率は0.1% (0.3%)、発生圃場率は8.3% (7.0%)、果頂部の被害果率は0.1% (0.2%)、発生圃場率は2.8% (2.1%)であった。

イ 黄色粘着トラップによる誘殺量は、平年よりやや多く推移している(図)。

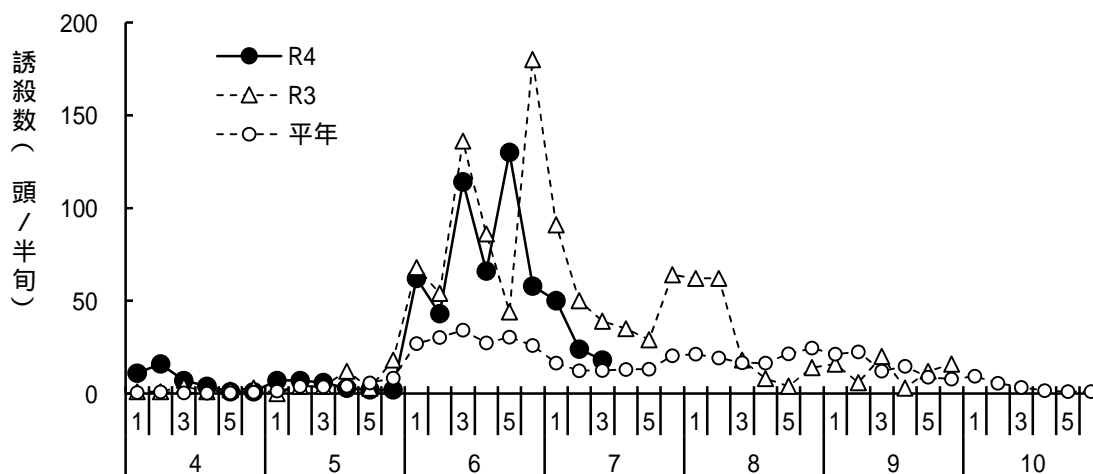


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況 (月・半月)
(諫早市小船越町:黄色粘着トラップ)

(3) 防除上注意すべき事項

ア 気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した発生ピーク予測日を下表に示した。

イ 茶、かき、ぶどう及びイヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 有効積算温度計算シミュレーションによるチャノキイロアザミウマ成虫の発生ピーク予測日

地点	長崎	佐世保	口之津	平戸
第4世代	7/12	7/12	7/15	7/23
" (平年)	7/18	7/20	7/19	7/31
" (前年)	7/7	7/8	7/12	7/20
第5世代	7/29	7/28	8/1	8/10
" (平年)	8/3	8/5	8/5	8/18
" (前年)	7/24	7/25	7/30	8/7
標高(m)	27	4	10	58
第6世代	8/14	8/14	8/17	8/28
" (平年)	8/20	8/21	8/21	9/6
" (前年)	8/10	8/10	8/17	8/27
標高(m)	27	4	10	58

注1: 発生ピーク予測日は気象庁アメダスの気温データを用いて有効積算温量により算出した。なお、積算には2022年7月18日までは観測値を、以降は平年値を使用した。

注2: 同一地区内でも、山間部では発生ピーク予測日が異なる場合があるので注意する。また、今後の気象条件により予測日は前後する場合がある。

注3: 表中の発生ピーク予測日の5日前から発生ピーク予測日の期間に薬剤散布をすると防除効果が高い。なお発生が多い園では、1果当たり寄生虫数が0.1頭に達する前に防除を行う。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容：発生程度 少

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(発病枝葉率0.5%、発生圃場率16.3%)。

2. 灰斑病

(1) 予報内容：発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査(10筆)の結果、発生枝葉率は5.6%(30.9%)、発生圃場率は100%(97.5%)であった。

3. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

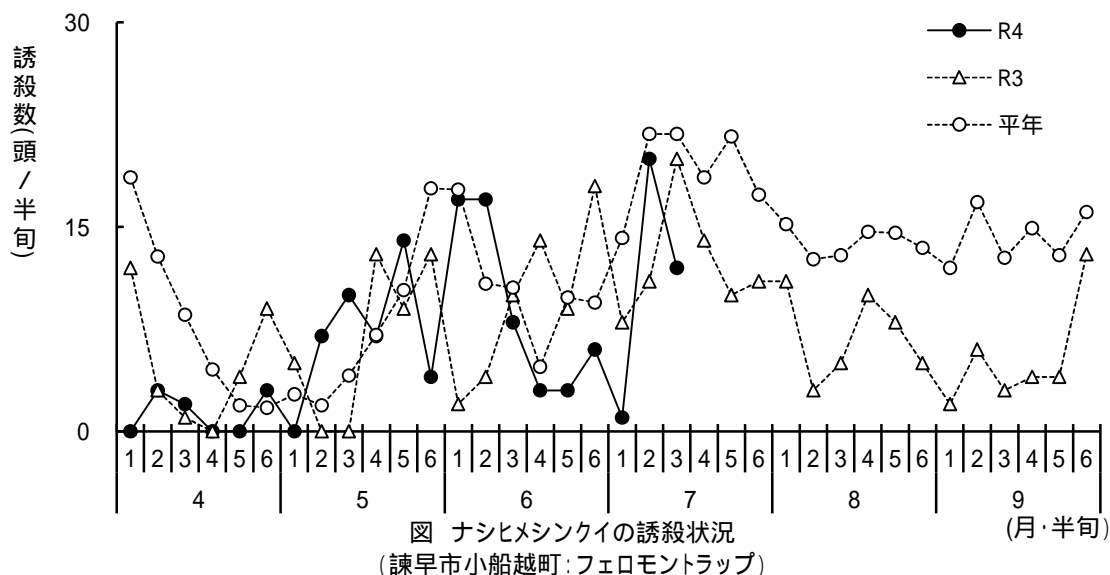
(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査(10筆)の結果、寄生枝葉率は0.3%(過去10か年平均0.0%)、発生圃場率は20.0%(過去10か年平均1.0%)であった。

イ 諫早市小船越町のフェロモントラップの誘殺数は平年並である(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

フェロモントラップにより発生消長を把握し、成虫の発生最盛期を目安に薬剤防除を実施する。



なし

1. 黒星病

(1) 予報内容: 発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は2.7%(1.3%)、発生圃場率は41.7%(34.5%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 発病した果そう基部、葉、果実は伝染源になるため、見つけ次第園外に持ち出し、埋没等の処分を行う。

イ 降雨により伝染するので、天候を見ながら適切に防除する。

ウ 薬剤散布に当たっては、かけむらがないよう十分量を散布し、薬液のかかりにくい園の周縁部には補完散布を行う。

エ 県内において、DMI(ステロール生合成阻害)剤に対する感受性が低下した地域が認められているため、同一系統(令和4年長崎県病害虫防除基準P410~411の「作用機構による分類(FRAC)」参照)の薬剤は連用しない。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容: 発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 7月前期の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(過去6か年発生を認めない)。

イ 諫早市小船越町のフェロモントラップの直近の誘殺数は平年並である(びわの項参照)。

果樹共通

1. カメムシ類

(1) 予報内容: 発生程度 少

(2) 予報の根拠数量は、各地区とも平年より少なく推移している(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 飛来時期や飛来数は園によって差があるので、こまめに見回って早期発見に努め、飛来を認めたら早急に防除する。

イ ハウス栽培では、開口部を防虫網(4mm目以下)で被覆し、侵入を防ぐ。また既に被覆済みのハウスでは、防虫網の破損がないか点検・補修する。

- ウ 無袋栽培のなしでは被害が大きくなるので、特に防除が遅れないようにする。
- エ 収穫時期の近い品目は薬剤の散布時期に注意し、農薬使用基準を遵守する。

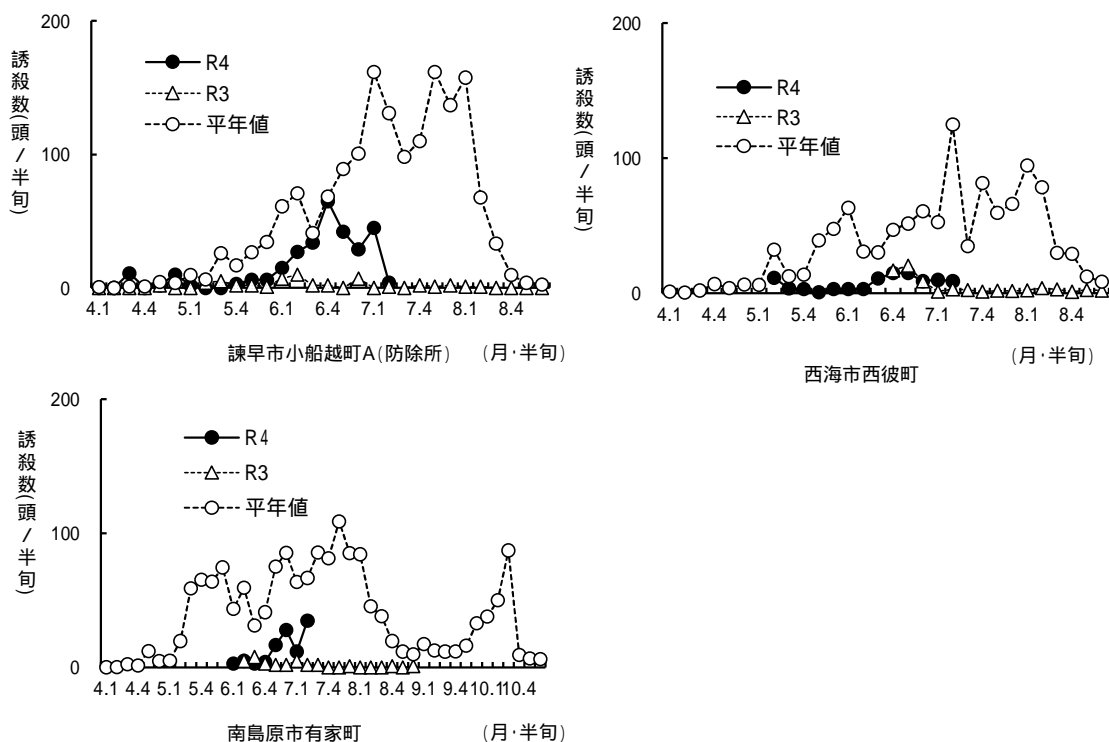


図 チャバネアオカメムシ・ツバアオカメムシの誘殺状況(黄色コガネコール)

茶

1. 炭疽病

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査(19筆)の結果、1㎡当たり発病葉数は8.2枚(3.4枚)、発生圃場率は63.2%(54.9%)で、一部多発圃場がみられた。

- (3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和4年長崎県病害虫防除基準P428~429の「作用機構による分類(FRAC)」参照)の薬剤は連用しない。

2. チャノキイロアザミウマ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査(19筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイ)は20.3頭(12.1頭)、発生圃場率は94.7%(89.3%)であった。

- (3) 防除上注意すべき事項

薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(令和4年長崎県病害虫防除基準P430~431の「作用機構による分類(IRAC)」参照)の薬剤は連用しない。

3. チャノコカクモンハマキ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

- ア 7月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.5枚（0.3枚）、発生圃場率は47.4%（12.1%）であった。
- イ フェロモントラップによる直近の誘殺数（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年並である（図）。

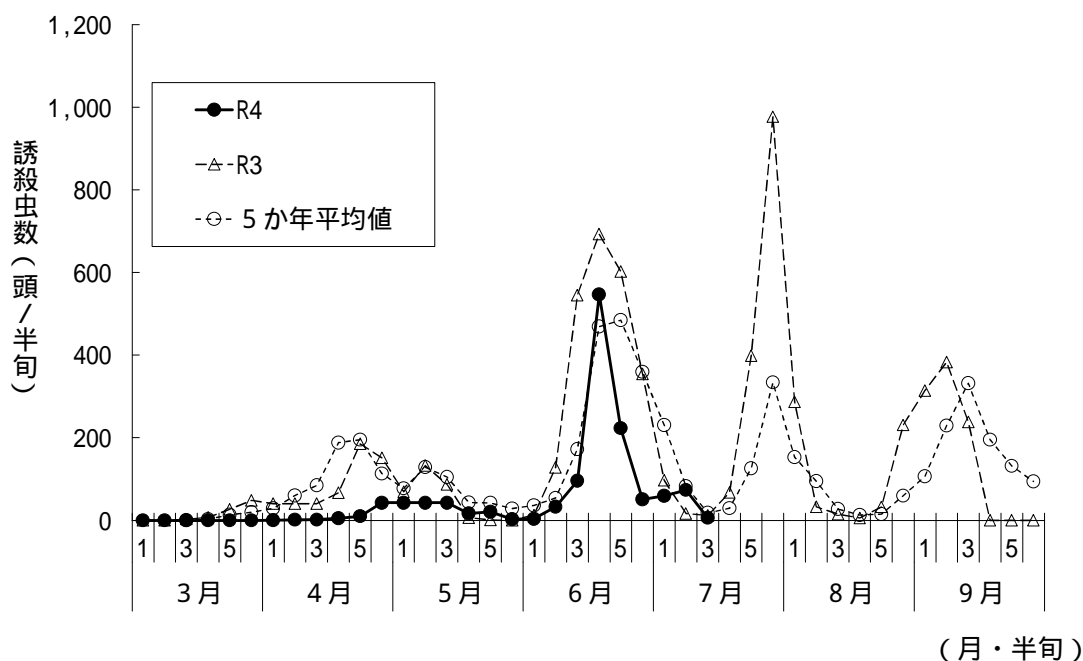


図 チャノコカクモンハマキの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 防除適期の目安は、脱皮阻害剤（IGR剤）は発蛾最盛期のころ、その他の薬剤は発蛾最盛期の約7～10日後である。
- イ 三番茶を摘採中あるいは近日中に摘採予定の圃場では、摘採終了後に防除を実施する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準P430～431の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

4. チャノホソガ

(1) 予報内容：発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 7月前期の巡回調査（19筆）の結果、1㎡あたり巻葉数は0.3枚（0.1枚）、発生圃場率は21.1%（7.3%）であった。
- イ フェロモントラップによる直近の誘殺数（農林技術開発センター茶業研究室調査）は、平年並～やや多く推移している（図）。

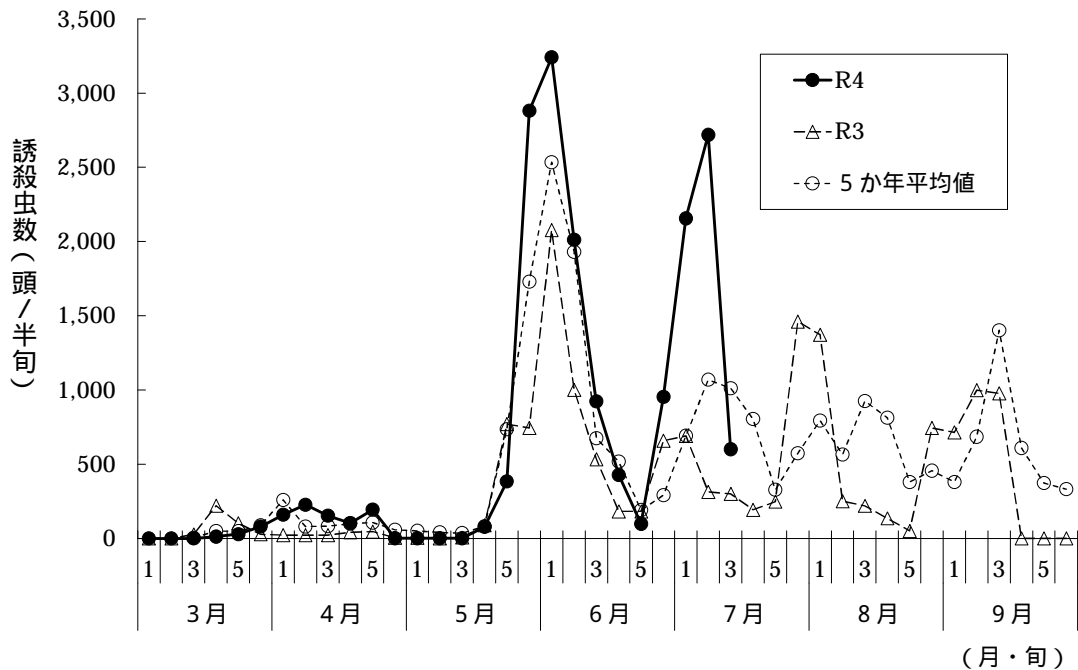


図 チャノホソガの誘殺状況（東彼杵：フェロモントラップ）

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 防除適期の目安は、脱皮阻害剤（IGR剤）は発蛾最盛期のころ、その他の薬剤は発蛾最盛期の約7～10日後である。
- イ 三番茶を摘採中あるいは近日中に摘採予定の圃場では、摘採終了後に防除を実施する。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準 P430～431の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

5. カンザワハダニ

- (1) 予報内容：発生程度 並
- (2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生葉率は0.3%（0.4%）、発生圃場率は15.8%（8.2%）であった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

- (1) 予報内容：発生程度 やや多
- (2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（19筆）の結果、たたき落とし虫数（A4版トレイ）は4.9頭（3.6頭）、発生圃場率は63.2%（73.4%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統（令和4年長崎県病害虫防除基準 P430～431の「作用機構による分類（IRAC）」参照）の薬剤は連用しない。

7. クワシロカイガラムシ

- (1) 予報内容：発生程度 少
- (2) 予報の根拠

7月前期の巡回調査（19筆）の結果、寄生株率は0.2%（7.3%）、発生圃場率は15.8%（39.5%）であった。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、

下表のふ化盛期予測日を参考にし、ふ化盛期～5日後までに防除する。
 イ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシの
 ふ化盛期予測日（第2世代）

地区名	標高(m)	令和4年	令和3年	令和2年	平年 (過去10か年)
東彼杵町太の原	360	7/15	7/15	7/22	7/22
五島市上大津	77	7/9	7/14	7/12	7/14

注1) 方法は「有効積算温度則による防除適期予測法（農林技術開発センター茶業研究室）」により、東彼杵町太の原（農林技術開発センター茶業研究室による測定値）、五島市上大津（アメダスデータ）で予測した。

なお、それぞれ7月19日以降のデータは東彼杵町太の原過去5か年平均、五島市上大津平年値を用いた。

注2) 気温が高くなるとふ化盛期が早まる可能性があるので注意する。

【参考】

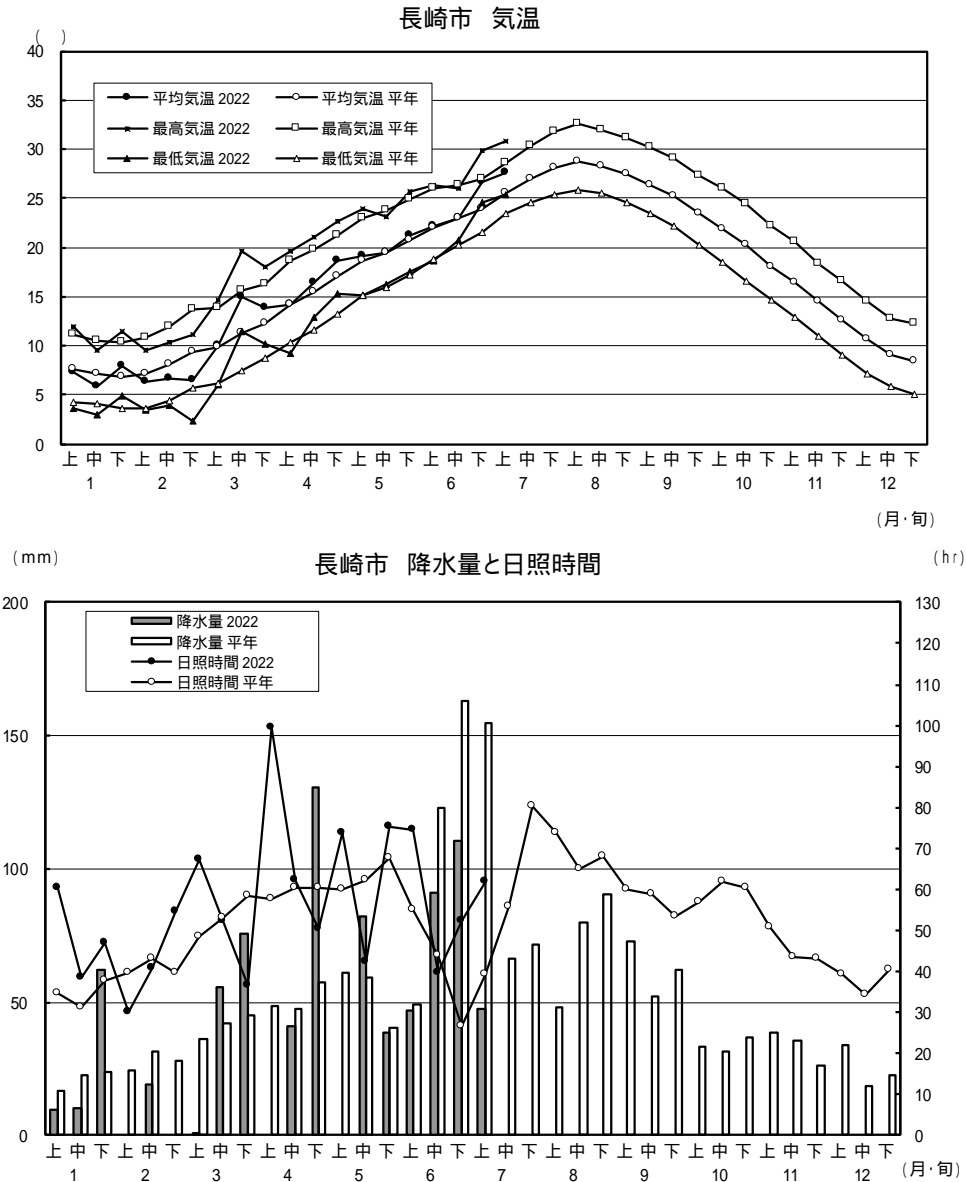
(令和4年7月14日発表 1か月予報 福岡管区气象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	20	40	40
日照時間	40	40	20

予報対象地域：九州北部地域

令和4年の気象経過（長崎地方气象台）



6月から8月までの3か月間を「農薬危害防止運動月間」と定め、農薬事故を防止する運動を実施しています。

長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

(長崎県病害虫防除所) ホームページ」アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室

(長崎県病害虫防除所) TEL：0957-26-0027

